

91 気象の激化による大規模土砂災害への備えについて

主管省庁（内閣官房，内閣府，国土交通省水管理・国土保全局）

【現状と課題】

直面する課題

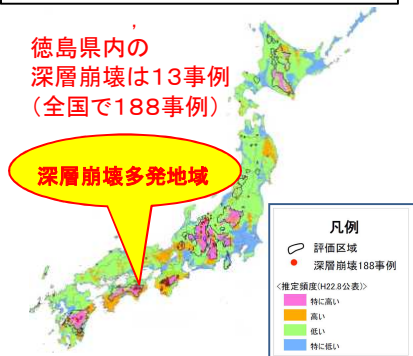
- 本県は全国屈指の深層崩壊多発地域であり，近年は，頻発するゲリラ豪雨や切迫する南海トラフ巨大地震等により深層崩壊の危険性が高まっているが，深層崩壊は，発生メカニズムや危険な斜面の特定など不明な点が多く，対策には高度な技術や多額の予算を要し，県独自の取り組みでは対応が困難である。
- 九州北部豪雨災害では，線状降水帯による記録的大雨により，土石流や山腹崩壊が多発。これらの土砂災害は，谷底平野を流れる中小河川の河床上昇を引き起こし，河川氾濫の原因となるとともに，大量の流木により被害が拡大したが，本県においても同様の被害が発生する可能性がある。

深層崩壊の危険性

●深層崩壊渓流レベル評価区域図

徳島県内の
深層崩壊は13事例
(全国で188事例)

深層崩壊多発地域



出典:「国土交通省HP」

●徳島県内で発生した深層崩壊

【平成16年台風10号 那賀町(旧木沢村)】



土砂流出による河床上昇

●九州北部豪雨災害



※谷底平野（こくていへいや）とは

V字谷において，地殻変動による河川勾配の減少などにより，土砂が堆積して形成された細長い平野



徳島県内に約120箇所

流出土砂が堆積しやすい

●徳島県内で発生した河床上昇（坂州木頭川）

【平成16年台風10号 那賀町(旧木沢村)】



出水により堆積
河床約6m上昇

河床上昇

【政権与党の政策方針】

《平成30年度国予算の内容》

- ◇ 防災意識社会への転換の加速化
 - ・ 地域を守る総合的な土砂災害対策 768億円

《自由民主党 総合政策集2017 J-ファイル》（P87, P88）

- ◇ 国土強靱化
 - ・ 国民の生命と財産を守る「国土強靱化（日本をしなやかに）」の加速
 - ・ 地震・火山・ゲリラ豪雨等の自然災害に対する強靱な社会を構築するための研究開発の推進

《公明党 マニフェスト2017》（P18）

- ・ 防災・減災対策、インフラ老朽化対策

県担当課名 砂防防災課
 関係法令等 砂防法，土砂災害警戒区域等における土砂災害防止対策の推進に関する法律，地すべり等防止法

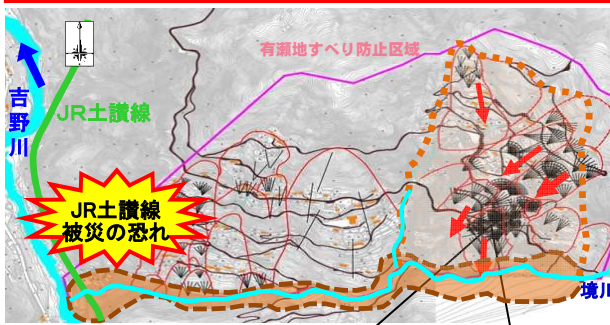
【課題解決への方向性と処方箋】

方向性（処方箋）

- 「国土強靱化」に向けて、深層崩壊に関する調査研究を加速するとともに、深層崩壊のおそれの高い地域の土砂災害対策については、ハード・ソフトを効果的に組み合わせた対策を実施するための、国の強力な支援が必要である。
- 記録的大雨から地域の壊滅的な被害を最小限にするためには、現在取り組んでいる土石流対策に加えて、谷底平野における河床上昇の危険性の把握と、抜本的な対策（砂防えん堤の整備）が不可欠である。

深層崩壊のおそれが高まる「有瀬地区」

有瀬地区では、年200mmを超える変動が継続中



- 緊急対策**
- ◆ 災害関連緊急地すべり対策事業(H30.2.1採択)
 - ◆ JR、高知県を含む警戒避難体制を構築

谷底平野の被災イメージ



国土強靱化の加速に向けて

【徳島発の政策提言】

具体的内容

提言① 深層崩壊危険地域における土砂災害対策への全面的支援

- ・ 「有瀬地区」のような深層崩壊の恐れの高い地域での地すべり対策は、高度な技術や多額の費用を要し、被害が広域に及ぶことから、財政面・技術面で国が全面的な支援を行うこと。

提言② 河床上昇による氾濫被害想定を作成

- ・ 谷底平野を流れる中小河川を対象に、土砂流出に起因する河床上昇のシミュレーションを事業メニューに位置付け、被害想定を作成できるよう砂防事業の拡充を図るとともに、河床上昇対策の予算確保を図ること。

将来像

大規模な土砂災害に対して「安全・安心な社会」の実現！

92 地方創生に向けた道路ネットワークの整備推進について

主管省庁（内閣官房，内閣府，国土交通省道路局）

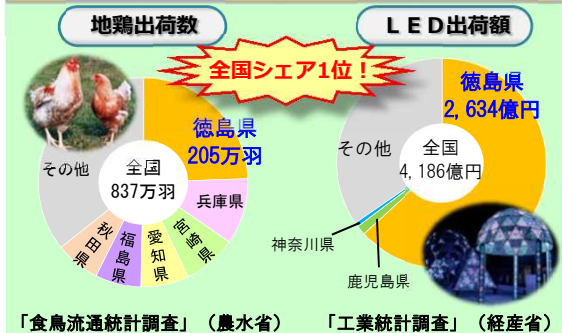
【現状と課題】

直面する課題

- 安全で安心な暮らしを支えるとともに、「ひと」や「もの」の流れを呼び込み「地方創生」を実現していくためには、基盤となるべき道路ネットワークが必要不可欠であるが、まだ本県の道路状況は脆弱である。
- 高品質な徳島ブランドの商圈の拡大や本県の魅力ある観光資源を活かした交流人口増加による地域活性化を図っていくためには、それを支える道路の整備が「待ったなし」の状況となっている。

地域が持つ高いポテンシャル！

「県南域」の農工業生産（H26）

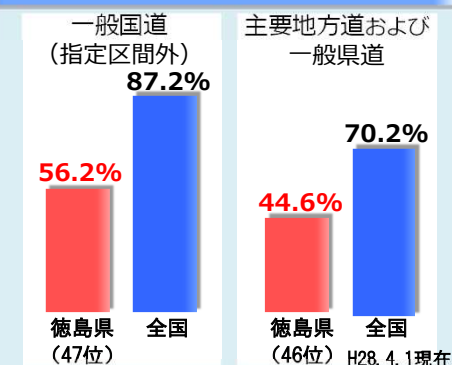


「祖谷のかずら橋」における外国人観光



一方で・・・

県管理道路の整備状況（改良率）



祖谷地方の観光周遊ルートへの混雑状況



地方再生のための「ひと」「もの」の波及・循環の足かせとなっている！

【政権与党の政策方針】

《平成30年度国予算の内容》

◇ 社会資本整備総合交付金 8,886億円，防災・安全交付金 11,117億円

《自由民主党 政権公約2017》（P33）

◇ 国土強靱化

・ 地方創生や国土強靱化に資する地方の道路整備を重点的・計画的に支援

《公明党 マニフェスト2017》（P11）

◇ ストック効果の高い社会資本の整備に戦略的に取り組む

県担当課名 道路整備課
 関係法令等 道路法，道路整備特別措置法

【課題解決への方向性と処方箋】

方向性（処方箋）

- 安全・安心の確保や、地域の活力を維持・増進していくため、地方創生を実現する道路ネットワークの整備推進を図る必要がある。
- 魅力ある地場産業や増加を続けるインバウンド観光の効果を広く行き渡らせるとともに、この好機を逃すことなく、さらに拡大を図っていくためには、その基盤となる道路整備を着実かつ迅速に推進していく必要がある。

アクセスを飛躍的に向上させる道路整備



ストック効果の「早期発現」と「最大化」

国土強靱化の加速に向けて

【徳島発の政策提言】

具体的内容

提言① 道路ネットワークの整備推進に必要な予算の確保

- ・ 地方の道路ネットワークの整備を計画的かつ着実に推進するため、道路関連予算の所要額を確保すること。

提言② 計画的に道路整備を推進するために補助事業を創設

- ・ 高規格幹線道路と一体的に整備する地域活性化ICへのアクセス道路について計画的な整備を図り、「地域の活性化」に向けた取組みを加速させるため、供用時期の公表が条件となっている補助事業の採択要件を緩和すること。
- ・ 安心・安全の確保やインバウンド観光に資する道路整備を計画的に推進するため、大規模な「トンネル」や「橋梁」について、新たな補助制度を創設すること。

将来像

「道路ネットワーク」を礎に「地方創生」を実現！

93 道路施設の強靱化について

主管省庁（内閣官房，内閣府，総務省，国土交通省道路局）

【現状と課題】

直面する課題

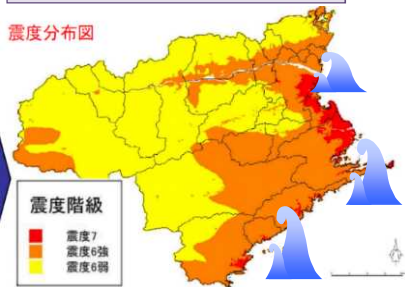
- 「徳島県南海トラフ巨大地震被害想定」では、県人口の半数近い約36万人が一時避難を余儀なくされるとともに、県内で140箇所の孤立集落が発生し、1,600箇所の道路施設が被災することが想定されている。
- 吉野川などの全国有数の大河川があることや、急峻な地形から、多種多様な形式の橋梁が多く存在し、橋梁数に占める長大橋の割合も全国11位（都道府県管理橋梁）であり、本県の維持管理費に占める橋梁の老朽化対策費用は概ね5割となっている。
- 「南海トラフ巨大地震」はもとより、「中央構造線・活断層地震」など、あらゆる大規模災害を迎え撃つため、「緊急輸送道路」などの橋梁耐震化が急務である。

切迫する南海トラフ巨大地震

今後30年以内の発生確率
70~80%!
～残された時間は「ごく僅か」～

南海トラフ巨大地震の被害想定

震度分布図



震度階級
震度7
震度6強
震度6弱

道路施設被害
1,600箇所

孤立集落
140集落

橋梁の多さは全国屈指

順位	橋長200m以上		橋梁数に占める 長大橋の割合
	都道府県名	割合	
1	東京都	22.1%	全国11位
2	大阪府	14.9%	
3	埼玉県	12.5%	
4	沖縄県	12.0%	
5	神奈川県	10.8%	
6	茨城県	10.6%	
7	栃木県	9.5%	
8	愛知県	8.5%	
9	富山県	8.3%	
10	千葉県	8.0%	
11	徳島県	8.0%	
全国平均		6.3%	

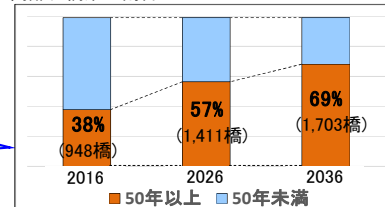
橋梁数に占める
長大橋の割合

全国11位

道路実延長に
占める
橋梁延長の
割合も
全国11位

2016道路統計年報

高齢化橋梁の割合



点検経費の増大



橋梁点検車



点検用足場



ロープアクセス

道路インフラの「防災・減災対策」，「老朽化対策」待ったなし！

【政権与党の政策方針】

《平成30年度国予算の内容》

- ◇ 地域における総合的な防災・減災対策等に対する集中的支援（11,117億円）

《まち・ひと・しごと創生総合戦略(2017改訂版)》(P94)

- ◇ 人口減少を踏まえた既存ストックのマネジメント強化
 - ・ インフラの戦略的な維持管理・更新等の推進

《自由民主党 政権公約2017》(P33)

- ◇ 国土強靱化
 - ・ 国民の生命と財産を守る「事前防災・減災，老朽化対策」を強力に推進
 - ・ インフラ老朽化対策，既存ストックの活用を図りながら，ストック効果の高い事業への選択と集中を推進
 - ・ 地方創生や国土強靱化に資する地方の道路整備を重点的・計画的に支援

《公明党 マニフェスト2017》(P11)

- ・ 老朽化対策とともに「賢く投資・賢く使う」インフラマネジメント戦略に転換

県担当課名 道路整備課
関係法令等 道路法，地方財政法

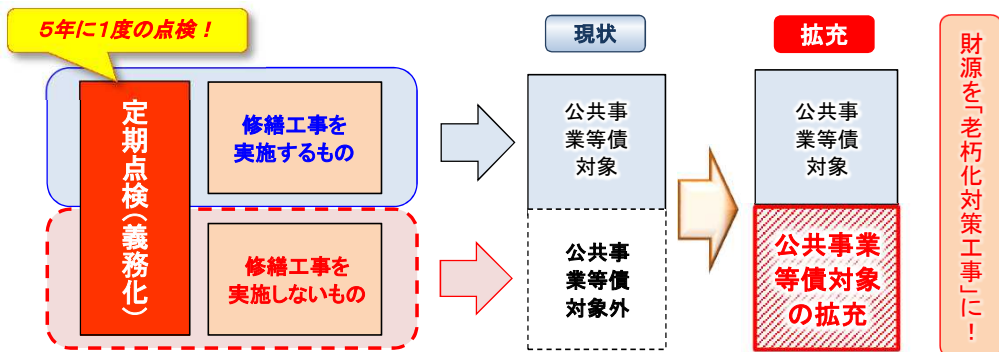
【課題解決への方向性と処方箋】

方向性（処方箋）

- 道路インフラの「老朽化対策」については、道路利用者が安心して使い続けられる道路の機能を維持するため、橋梁、トンネル等の長寿命化対策を加速する必要がある。
- 「戦略的な維持管理・更新」を推進するため、「定期的な点検・診断」と「計画的な修繕」に取り組む必要がある。
- 南海トラフ巨大地震をはじめとする自然災害から、避難困難、孤立、地域分断などを防止するため、「緊急輸送道路」や「津波避難に資する道路」、「生命線道路」の橋梁耐震化を加速する必要がある。

「耐震化・老朽化対策」により道路施設強靱化を推進

定期点検に係る「公共事業等債」の対象範囲を拡充



老朽化対策の本格実施！

インフラを「次代に引き継ぐ」！

「緊急輸送道路」などの橋梁耐震化を重点配分対象に拡充



橋梁耐震化を加速！

国土強靱化の加速に向けて

【徳島発の政策提言】

具体的内容

提言 道路施設強靱化予算の確保と制度の拡充

- ・ 道路施設強靱化を推進するため、耐震化・老朽化対策に必要な予算を確保するとともに、巨大地震の発生が懸念される地域に重点配分すること。
- ・ 老朽化対策を加速させるため、義務化されている5年に1度の「定期点検」について、全ての点検を公共事業等債の対象にすること。
- ・ 国民の安全・安心を守るため、「緊急輸送道路」や「津波避難に資する道路」、「生命線道路」の橋梁耐震化について、防災・安全交付金の重点配分対象とすること。

将来像

「強さ」と「しなやかさ」を備えた、強靱な道路施設の実現！

94 高速道路ネットワークの早期整備について

主管省庁（内閣官房，内閣府，国土交通省道路局）

【現状と課題】

直面する課題

- 徳島県沿岸部では、南海トラフ巨大地震や集中豪雨などの大規模自然災害により、基幹道路が寸断し、地域の孤立が懸念される。
- 緊急輸送道路の機能を有し、地域ポテンシャルを活かした地方創生を実現する高速道路ネットワークが十分に整備されていない。

エポックメイク第2弾

- 【徳島東IC (H31開通予定)】
- ◆ 複合一貫ターミナルと高速道路が直結！
- 【津田IC (H32開通予定)】
- ◆ 水門貯木場を埋立て新たな産業拠点に！

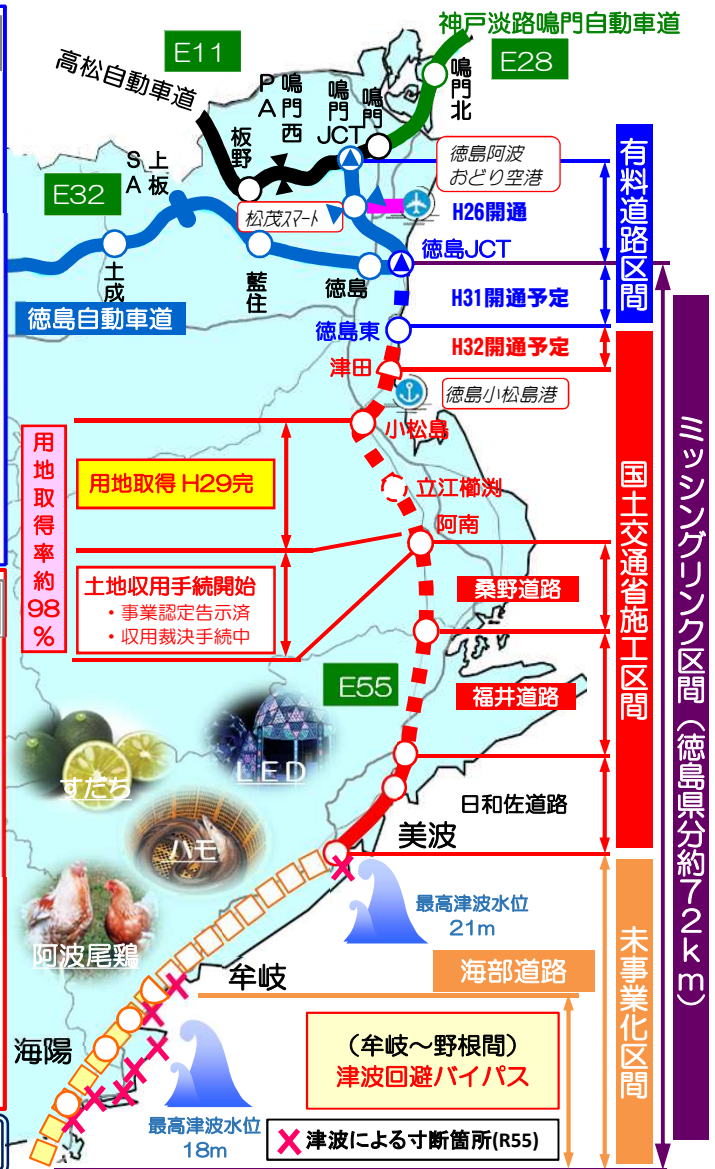


高速道路を賢く使う

- 【鳴門JCT～徳島IC間 (H26開通)】
- ◆ 県・2市2町・NEXCO西日本と連携し津波避難場所を8箇所設置！



「活力の道」「命の道」の整備が急務！



【政権与党の政策方針】

- 《平成30年度国予算の内容》
- ◇ 道路ネットワークによる地域・拠点の連携 3,765億円（対前年度比107%）
- 《自由民主党 総合政策集2017 J-ファイル》（P89）
- ◇ 高速道路のミッシングリンクの解消，基幹ネットワークの整備
- 《公明党 マニフェスト2017》（P11）
- ◇ ストック効果の高い社会資本の整備に戦略的に取り組む

県担当課名 高規格道路課
 関係法令等 道路法，高速自動車国道法，道路整備特別措置法

【課題解決への方向性と処方箋】

方向性（処方箋）

- 高速道路ネットワークの整備を推進するため、予算を拡大する必要がある。
- 「活力の道」「命の道」となる高速道路等の整備を推進するとともに、ストック効果の最大化を図るため、地域の取組みと連携する必要がある。

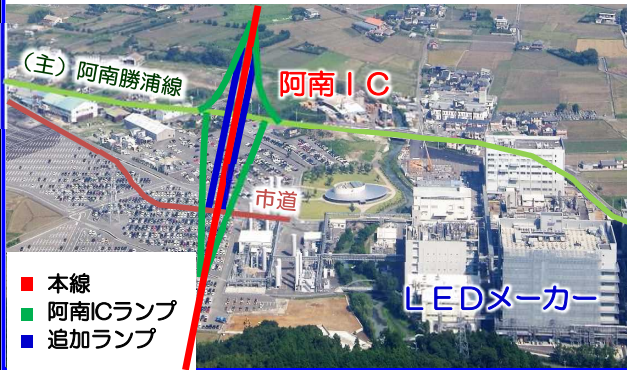
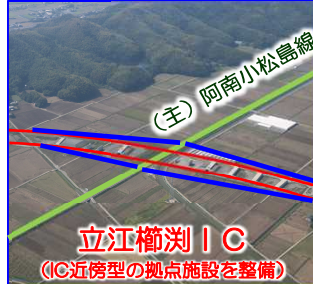
ストック効果の最大化

【立江櫛淵IC】

- ◆ 県：地域活性化ICの許可申請！（H30）
- ◆ 小松島市：IC近傍に「地域振興拠点施設」を具現化！

【阿南IC】

- ◆ 県：県道の渋滞対策として追加ランプを整備！
- ◆ 阿南市：ランプに接続する市道を整備！

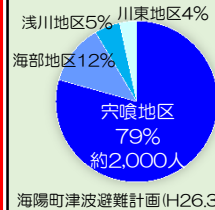


「海部道路」の早期事業化

【海陽町穴喰地区】

- ◆ 海陽町の避難困難者のうち穴喰地区が約8割！
- ◆ 穴喰ICと接続する地域防災公園を具現化！
⇒ 町：「地域防災公園」の整備に着手
県：「アクセス道路」
- ◆ H31年度の事業化に向け都市計画決定予定！

避難困難者数の割合



国土強靱化の加速に向けて

【徳島発の政策提言】

具体的内容

提言① 高速道路ネットワークの整備推進に係る予算の拡大

- ・ ミッシングリンク区間の早期解消に向け、必要な予算を拡大すること。

提言② 「活力の道」「命の道」となる高速道路等の整備推進

- ・ 四国横断自動車道「徳島JCT・津田間」を確実に供用させること。
- ・ 「小松島・阿南間」の整備加速に向け、地域活性化ICを活用し、「立江櫛淵・阿南間」を先行供用するとともに、用地取得を終えた区間のトンネルに早期着手すること。
- ・ 阿南安芸自動車道「桑野道路」「福井道路」の整備推進を図ること。
- ・ 国土強靱化に向け、「命の道」である「海部道路」の早期事業化を図ること。特に「牟岐・野根間」は、平成31年度に新規事業化を図ること。

提言③ 高速道路ネットワークの整備を加速する仕組みの構築

- ・ 高速道路ネットワークの早期完成に向け、地域の実情を踏まえ、国・高速道路会社・地方の役割分担のもと、一部区間の整備方式を見直すなど、「四国8の字ネットワーク」全体の整備が加速する仕組みを構築すること。

将来像

高速道路等のストック効果で「安全で利便性の高い社会」の構築！

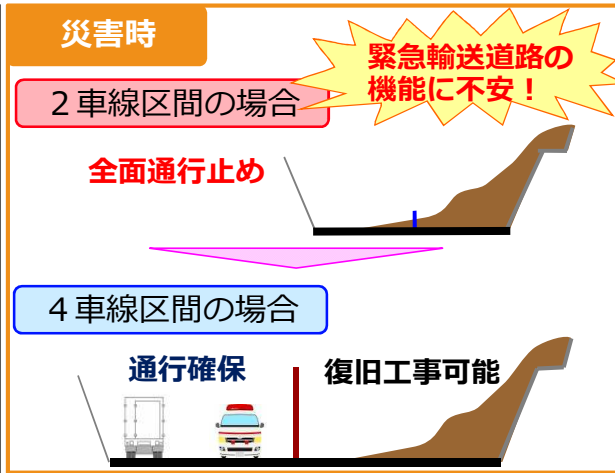
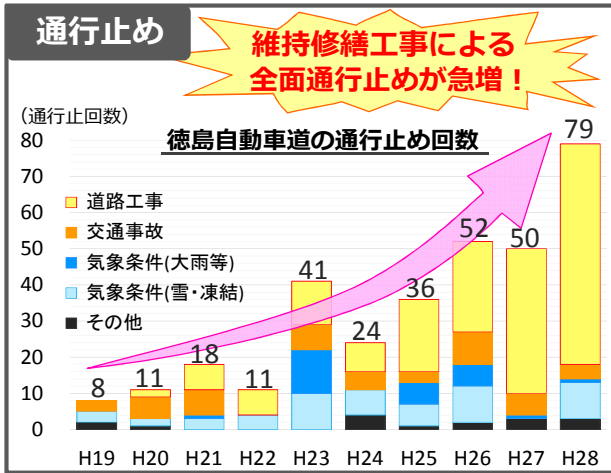
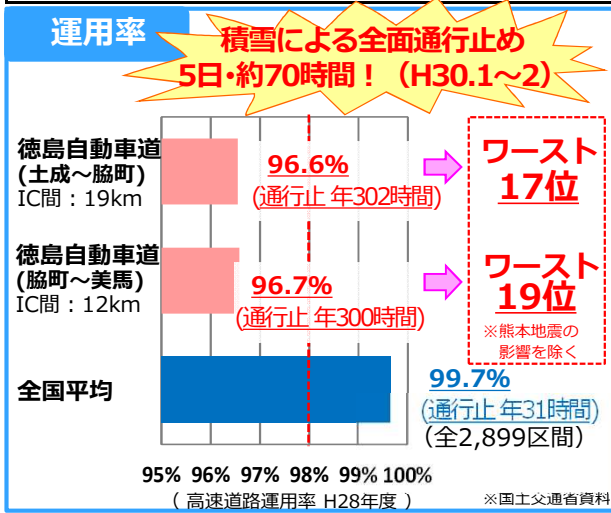
95 「徳島自動車道」の4車線化について

主管省庁（内閣官房，内閣府，国土交通省道路局）

【現状と課題】

直面する課題

- 徳島自動車道は，暫定2車線区間が約8割を占め，4車線区間に比べ，死亡事故や速度低下が頻繁に発生するなど，走行性や安全性が不十分である。
- 災害時や維持修繕工事において，長時間の全面通行止めが発生する。
- 暫定2車線の構造物区間では，正面衝突事故防止対策が確立されていない。



【政権与党の政策方針】

《平成30年度国予算の内容》

- ◇ 高速道路の安全性，信頼性や使いやすさを向上する取組
 - ・ 暫定2車線区間は，速度低下や事故防止等の観点から対策を推進

《自由民主党 総合政策集2017 J-ファイル》(P89)

- ◇ 国民に約束した国の基幹ネットワークを含む道路網の整備
 - ・ 高速道路の4車線化の加速

高速道路の暫定2車線対策や逆走防止対策など，安全・安心にかかる取組

《公明党 マニフェスト2017》(P11)

- ◇ ストック効果の高い社会資本の整備に戦略的に取り組む

県担当課名 高規格道路課
 関係法令等 高速自動車国道法，独立行政法人日本高速道路保有・債務返済機構法

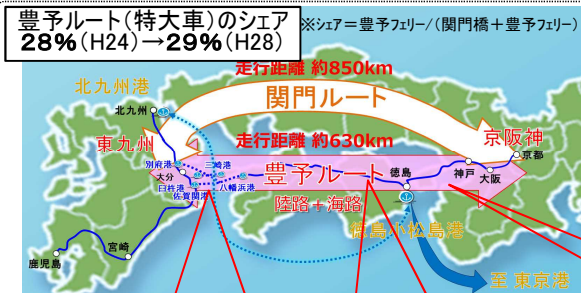
【課題解決への方向性と処方箋】

方向性（処方箋）

- 広域交通ネットワークを一体的かつ戦略的に形成するとともに、利用者の安全・安心を確保するためには、高速道路の4車線化が必要である。
- 徳島自動車道の機能を強化するためには、付加車線の追加・設置に加え、緊急的な安全対策として、正面衝突の事故防止対策が必要である。

九州と京阪神を最短で結ぶ豊予ルート（徳島自動車道）が注目！

モーダルシフト：海上輸送を組み込む豊予ルートの交通量が増加！

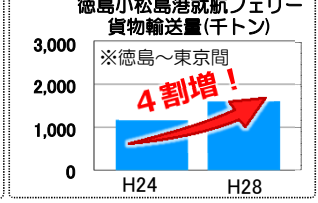
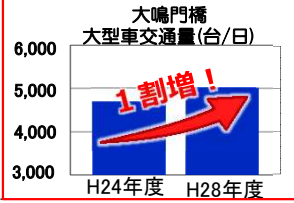
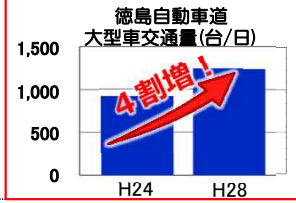


【徳島県トラック協会の声】

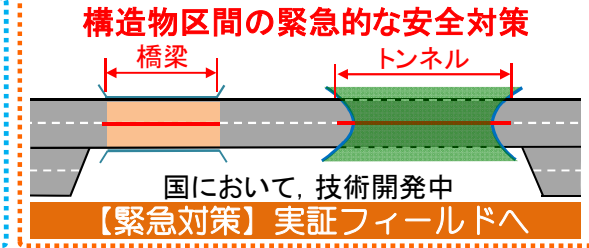
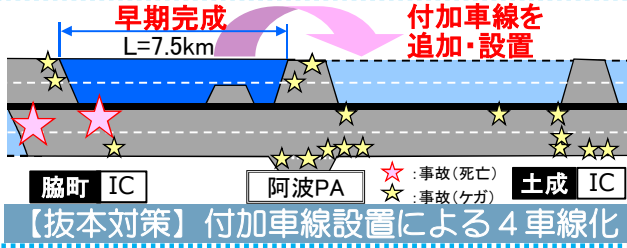
- ・豊予ルートは九州と本州をつなぐ重要な路線
- ・フェリー乗船時間が休憩扱いになり、労働環境改善に(H27基準改正による)
- ・安全性・定時性確保のため高速道路の4車線化を！

さらに徳島小松島港では

- ・H26：耐震強化岸壁が完成
- ・H28：新造フェリーが4隻就航



賢い投資による機能強化



国土強靱化の加速に向けて

【徳島発の政策提言】

具体的内容

提言① 「徳島自動車道」への賢い投資による機能強化

- ・阿波パーキングエリア付近の付加車線の早期完成を図るとともに、連続的に付加車線を追加・設置し、4車線化を図ること。
- ・橋梁やトンネルなど構造物が多い区間の緊急的な事故防止対策を確立するため徳島自動車道を「実証フィールド」とすること。

提言② 早期整備に向けた「新たな仕組み」の創設

- ・暫定2車線区間の4車線化を加速するため、地方公共団体が予算を投入できる「新たな仕組み」を創設すること。

将来像

安全で使いやすい 四国の大動脈 徳島自動車道の実現！